

読書

ベートーヴェン

注目の一冊

人生か

ピアノ、楽員の兼任ではなく独立した指揮者の誕生、「古典(クラシック)」という規範の成立、ソナタの衰退などが生きた歴史として伝わってくる。

今年誕生250年というベートーヴェン・イヤール。当時の情勢を実感するのにうってつけの一冊である。

(白石美雪・音楽評論家)
(春秋社・2420円)

記者の書評

男とはなんと哀れな生き物なのか。女性関係で思い当たる節がある人ならば何かに気づききっかけになるかもしれない。

本書は四つの話が入った短編集。各話で女性の行動に惑わされる男性が描かれる。

島根県の隠岐諸島や奥出雲町が主な舞台の「きつねの嫁入り」。登場する男性は隠岐を訪れ、初恋相手に似た女性と出合い意気投合した。しかし、すべては女性に仕組まれたことだっ

三匹の猫



西尾 威智朗著

の憎しみとも取れる行動に手に汗を握った。

そして題名になっている「三匹の猫」。表紙を見ると2匹の猫は衣服を着て、2本足で立っている。もう1匹の猫は服を着ず、座っている。

この話では主人公の男性が1匹の子猫を飼い始めたことをきっかけに、親交を深めていった娘とその母親が猫に例えられている。また、4話を通じて、そのような行動に至った女性の心理も詳細に描かれ納得した。男女を問わず、人をもっと良く理解したいと思えるきっかけになった。

「スペアキー」では男性が、女性2人に翻弄される。女性の計画的な恐ろしさを感じた。逆に男性が姉妹の関係を悪化させ、姉が自殺する「時効」。仲を深めた男性と妹への仕返しを遺書に表れ、裏切られた姉

は引かれる一方、頭を抱えた。やはり「三匹の猫」が特に読み応えがあった。記者の実家には5匹の猫がいて時折、理解しがたい行動も見せ、何を考えているのだろうかかと思ったこともある。それは娘と母親の行動とも重なった。

こんな村上龍の作品は初めてだ。村上は全ての命題を手放してなお、自分が小説家であることを証明している。大きなテーマはなくともいい。小説家は全てを失っても小説を書く。そして、改めて感じるのには、村上龍という小説家がイメージの構築によって小説を書いてきた、ということだ。イメージを磨き上げ、連鎖させ、喚起力を持たせる。小説の核をつくる。その手つきが素晴らしい。

村上龍は手ぶらで私たちの前に立っている。そのことに感動を覚えた。

(陣野俊史・文芸評論家)
(新潮社・1650円)

ベストセラーズ

東京

(SHIBUYA TSUTAYA調べ)

- ①りんくまがじん (久間田琳加著、集英社・1540円)
- ②りんくまちっく 久間田琳加ファースト写真集 (川島小鳥撮影、集英社・1760円)
- ③のぎたび (乃木坂46著、幻冬舎・1540円)
- ④元いじめられっ子のクソヤンキーが勝手に起業させられて月収100万円になった話 (木村匠著、ユサフル・1540円)
- ⑤いつかの待ち合わせ場所 堀未央奈2nd写真集 (Takeo DeC.撮影、ワニブックス・1980円)

沢が言は、著なく奔る時代が現地の旅に上がつ地の中か。読

読書

ベートーヴェン

注目の一冊

人生か

ピアノ、楽員の兼任ではなく、独立した指揮者の誕生、「古典(クラシック)」という規範の成立、ソナタの衰退などが生きた歴史として伝わってくる。

今年誕生250年というベートーヴェン・イヤール。当時の情勢を実感するのにつけてつけの一冊である。

(白石美雪・音楽評論家)
(春秋社・2420円)

記者の書評

男とはなんと哀れな生き物なのか。女性関係で思い当たる節がある人ならば何かに気づききっかけになるかもしれない。

本書は四つの話が入った短編集。各話で女性の行動に惑わされる男性が描かれる。

島根県の隠岐諸島や奥出雲町が主な舞台の「きつねの嫁入り」。登場する男性は隠岐を訪れ、初恋相手に似た女性と出会い意気投合した。しかし、すべては女性に仕組まれたことだっ

三匹の猫



た。男女の両目線で描かれ、2人の心境を理解し、読み返したくなった。

「スペアキー」では男性

が、女性2人に翻弄(ほんろう)される。女性の計画的な恐ろしさを感じた。逆に男性が姉妹の関係を悪化させ、姉が自殺する「時効」。仲を深めた男性と妹への仕返し。遺書に表れ、裏切られた姉

西尾 威智朗著

の憎しみとも取れる行動に手に汗を握った。

そして題名になっている「三匹の猫」。表紙を見ると2匹の猫は衣服を着て、2本足で立っている。もう1匹の猫は服を着ず、座っている。

この話では主人公の男性が1匹の子猫を飼い始めたことをきっかけに、親交を深めていった娘とその母親が猫に例えられている。自由奔放で何を考えているのか分からない、特に娘が見せる猫のような行動に男性

は引かれる一方、頭を抱えた。

やはり「三匹の猫」が特に読み応えがあった。記者の実家には5匹の猫がいて時折、理解しがたい行動も見せ、何を考えているのだろうかかと思ったこともあった。それは娘と母親の行動とも重なった。

ただ、4話を通じて、そのような行動に至った女性の心理も詳細に描かれ納得した。男女を問わず、人をもっと良く理解したいと思えるきっかけになった。

(スポーツ・写真部、藤原康平)

(幻冬舎・1210円)

ベストセラーズ

東京

(SHIBUYA TSUTAYA調べ)

- ① りんくまがじん (久間田琳加著、集英社・1540円)
- ② りんくまちっく 久間田琳加ファースト写真集 (川島小鳥撮影、集英社・1760円)
- ③ のぎたび (乃木坂46著、幻冬舎・1540円)
- ④ 元いじめられっ子のクソヤンキーが勝手に起業させられて月収100万円になった話 (木村匠著、ユサフル・1540円)
- ⑤ いつかの待ち合わせ場所 堀未央奈2nd写真集 (Takeo DeC.撮影、ワニブックス・1980円)

沢が言は、著なく奔時代が現地が旅の上がつ地のも国境か。読考えて